

ICUでのPTの役割

特殊講義

ICUとは

- 病院内の施設の一つ。呼吸、循環、代謝その他の重篤な急性機能不全の患者を**24時間体制**で管理し、より効果的な治療を施すことを目的とする。英語では **Intensive Care Unit** と呼び、日本でも**ICU**という略号が用いられることがある。

A blurred background of an Intensive Care Unit (ICU) showing medical equipment, including an IV drip and a patient in a bed.

ICU Intensive Care Un



岡山大学ICU





- 日本集中治療医学会で「集中治療のために濃密な診療体制とモニタリング用機器、ならびに生命維持装置などの高度の診療機器を整備した診療単位」と定義されている[2]。

- 集中治療室では一般には「病棟で重篤な症状を表した患者」「救急患者のうち継続的な状態管理が必要な患者」「手術後に高度な状態管理が必要な患者」など急性期の重症患者を受け入れる。しかし、今日の一般病棟では、血圧、呼吸、酸素飽和度などの**24時間**モニタリングを実施することは可能なので、通常の手術であれば一般病室で**24時間**モニタリングを受けるだけの場合も多い。

- 逆に急性症状のない慢性疾患や末期がん患者など、重症であっても集中治療室の対象にならない場合がある。
- 集中治療室の対象となる場合の代表例としては、主として重要臓器の機能不全があり生命が危険にさらされているものかが上げられる。

心臓血管疾患集中治療室 - CCU (Coronary Care Unit)

- 重症の循環器系疾患を集中的に治療する

新生児集中治療室 - NICU (Neonatal Intensive Care Unit)

- 新生児用の集中治療室のこと。新生児科に併設され、新生児のうち極低出生体重児や仮死新生児など、集中治療が必要な患者を対象としたもの。正しくは新生児特定集中治療室。NICUで治療を受け、低出生体重から脱した新生児や状態が安定してきた新生児は、GCU (Growing Care Unit) - 継続保育室（回復治療室，発育支援室）に移動して引き続きケアを受ける場合もある。

Ⅲ 早期リハビリテーションの定義について

早期リハビリテーションとは「疾患の新規発症，手術または急性増悪から 48 時間以内に開始される運動機能，呼吸機能，摂食嚥下機能，消化吸収機能，排泄機能，睡眠機能，免疫機能，精神機能，認知機能などの各種機能の維持，改善，再獲得を支援する一連の手段」のことである。

1. リハビリテーションの定義，目的について

世界保健機構 (World Health Organization: WHO)¹⁾によると，リハビリテーションは「環境との相互作用に最適な機能を維持したり獲得するために，障害を経験したり，または経験する可能性がある人々を支援する一連の手段」と定義されている。

これまでも、リハビリテーションでは運動機能が優先されてきたことから、「早期リハビリテーション」＝「発症や手術後早期から行われる運動や理学療法」とのイメージが強いと思われる。欧米では、「early mobilization」、「early mobility and exercise」と表現される「発症や手術後早期から行われる運動や理学療法」は、ベッド上から行われる他動運動、自動介助運動、自動運動、頭を挙上したヘッドアップ座位、端座位や立位での重力負荷やバランス練習、起立、歩行の再教育などの運動プログラム^{※1}である^{2,3)}。一方、前出のリハビリテーションの本来の意味（定義）を鑑みると、このような段階的に行われる運動に限らず、呼吸機能、摂食嚥下機能、消化吸收機能、排泄機能、睡眠機能、免疫機能、精神機能、認知機能などさまざまな機能を維持、改善、再獲得するための多様な取り組みを早期から行うことが「早期リハビリテーション」といえる。

2. 早期とは

欧米では、early mobilization（早期運動）は2～5日以内に行われる身体活動とされている^{2, 3)}。6日以上経過している患者を対象として、early mobilizationとして報告しているものもあるが、不動による筋の変性や筋量の減少が、疾患の新規発症、手術または急性増悪から48時間以内に始まり⁴⁾、2～3週間のうちに最大となる⁵⁾ことを考慮すると、「早期」とするからには、疾患の新規発症、手術または急性増悪から48時間以内には開始し、その後、2～3週間は運動介入を強化するべきと解釈できる。

IV. 早期リハビリテーションの効果について

CQ 1 :

早期離床や早期からの積極的な運動は、退院時や退室時の日常生活動作 (ADL) 再獲得に効果があるか？

A :

- ・ 早期離床や早期からの積極的な運動により退院時の Barthel Index および機能的自立度が有意に改善する。
- ・ 退室時のADL再獲得についての報告は少ないが、身体機能や基本動作を改善することが確認されつつあり、今後も検証が必要である。